

イスラエルのための祈り  
ICCの逮捕状  
2024/12/9恵比寿マンデー



# ICCが イスラエルのネタニヤフ首相に逮捕状

- ・11月21日 ネットニヤフ首相とガラント前国防大臣に逮捕状を出したと発表
- ・「ガザ地区における戦争犯罪と、ガザで意図的に食糧などの供給を滞らせた国際人道法違反」の容疑
- ・ICCの124加盟国は 自国領土に入った際 拘束するよう要求(米、イスラエルは非加盟国)

## <各国の反応>

米:反対 加:従う 仏:ノーコメント 独:検討。訪独の場合は考える

英:ICC独立性認める。逮捕に関する仮定質問に答えず 伊:検討 中国:賛成

パレスチナ:歓迎 日本:沈黙

# ICC国際刑事裁判所とは

- ・国際的犯罪に対して個人の責任を追及するために設立された国際的な常設裁判所
- ・2002年7月1日に発効したローマ規程に基づいて設立(1998年7月ローマで開かれた全権大使会議でローマ規定 採択)
- ・法律的にも機能的にも国連から独立しており、国連システムの一部でもない

## <本部と組織>

- ・所在地: オランダのハーグ
- ・構成: 18人の判事。但し いかなる場合でも同じ国から2人の裁判官を選出することはできない

# 設立の背景

第二次世界大戦後、ニュルンベルク裁判や東京裁判を通じて、国際法に基づいて戦争犯罪を裁く動きが出たが、その後の国際的紛争や大量虐殺(例:ルワンダ虐殺、旧ユーゴスラビア紛争)に対処するための特別法廷では一時的で限定的な対応のみ→恒久的な国際刑事裁判所の必要性

## <ICCの目的>

ICCは、国家や個人が犯す重大な国際犯罪を裁く。

1. 重大な国際犯罪への責任追及  
・戦争犯罪・ジェノサイド(集団殺害)・人道に対する罪・侵略犯罪
2. 国際的な正義の確立

## <日本とICC>

日本は加盟国の一つ、ICCの活動に積極的に関与  
財政面でも 加盟国中で最大の分担金担い手

国際刑事裁判所 (ICC) のトップは、赤根智子所長。赤根氏は2024年3月11日に選出され、任期は3年。日本人がICCの所長に就任するのは初めてで、女性所長も初めて。

## <限界と批判>

- 一部の主要国(例:アメリカ、中国、ロシア、インドなど)が 非加盟であり、ICCの管轄が及ばない場合あり
- 政治的中立性や執行力の不足の指摘あり



# お祈りの課題

\* 今回のICCによる逮捕状発行が 国際的な印象操作の材料として使われないように

\* イスラエル政府が 粘り強くICCに真実を示し、逮捕状が無効と認められるように

\* ネタニヤフ首相の国外への移動が制限される中、国際会議など必要な場への移動の道が開かれるように

\* ICCが 本来の使命を果たし、真実に基づき公正な判断をする組織となるように

「テロ組織に攻撃されている国民を守ろうとする民主国家が戦犯にされるのは、反ユダヤ主義に基づく暴挙である」(ネタニヤフ首相の声明)

\* 「すべての反ユダヤ主義は、神の計画に対する挑戦である」(中川先生)との霊的戦いの本質を私たちが理解して、祈りを積んでいけるように

